

巻頭言

*

TIPSからKIPS、そして……



小澤 明

母校、都立日比谷高校に加川 仁先生という名物先生がおられた。物理を担当しておられたが、その厳しさから生徒が震え上がるような先生であるが、先生の授業さえきちんと理解すれば、どんな物理の難問も解けるという絶対の信頼があった。その先生の定年を前に授業があり、先生の教師生活についての話が妙に心に残っていた。「私は40年の教師生活で財産などは何も残らなかった。でも、私にはそれ以上の財産が残っている。それは、君たちを含めて沢山の教え子がかげがえのない誰にも負けない財産である」。その当時は、成る程、母校の卒業生には、1期生の夏目漱石をはじめ政界、財界、文化、スポーツ界などなど、多くの著名な有名人を輩出していることは私も知っていたし、「そんなものか？」というのが、高校生の私の心に残ったものであった。

昨春、私は大学勤務の定年を迎え、小学生から考えたら、実に60年間の学校での生活を終え、卒業することができた。そのうち、東海大学では実に40年間もの教員生活を過ごすことができた。そして、その日を迎え、その祝賀会での挨拶をするにあたり、「私は何ができたのだろうか?」「何を残せたのだろうか?」「何か役に立ったのだろうか?」必死に考えた。マイクの前に立った時、頭は真っ白に。そして、思い浮かんだのは、今までお会いした、一緒に働いた、そして遊んだ、時には笑い、時には悲しみ、怒り、すべてのかたへの「感謝」という言葉しか出てこず、そんな自分に驚いた。定年を迎え、何の財産も残らなかったということは加川先生と同じようだったが、私にとっての財産は、「そのすべての人との関わり」であったことに気づいた。

2014年の秋、大学教職の最後の総決算として、私の我が儘を聞いてくれた東海大学、教室員、OB、神奈川県皮膚科医会の栗原誠一先生、増田智栄子先生、日下部芳志先生など諸先生、そして、全国の皮膚科医の諸先輩、仲間の協力により、TIPS 2014 (Tokai International Psoriasis Summit 2014) という、無茶な、無謀な会議を開催できた。東海大学皮膚科で恩師の大城戸宗男先生、故新妻寛先生、松尾隼朗先生から学んだ「乾癬」について、何か、役に立つことをしたいと、「乾癬」という疾患について、本音で話し合える機会、皆で力を合わせてすべきことなどを真摯に語り合える機会を、国、政策、製薬会社などのバイアスを取り除いた会議を、東海大学の主催として企画した。日本、米国、中国、台湾、韓国、タイから100名以上の皮膚科医、研修者が一堂に会し、2日間にわたる会議を、東海大学校友会館(霞ヶ関ビル、35階)で開催し、「To know others & To do something together」として、その記録集も英文で発刊できた。そして、この会議は2016年9月23日にソウルでKIPS 2016 (Korea International Psoriasis Summit 2016) として開催が採択され、現在準備が進められている。そして、その後は、さらに……。

このTIPS 2014こそが、私の財産の集大成の1つであり、自分自身、人との繋がりをできる限り大切にし、蓄積した財産となっていたからこそ、その開催が可能となったと確信している。やっぱり、私の人生では、「多くの人との繋がり」そして「感謝」がすべてである。これからの、残された人生も、それを大事にしていきたいと思っている。

(東海大学 名誉教授)